

町史編さんだより

第7回

『根雨・近藤家(下備後屋)が経営した鉄山』

かつて、『たたら製鉄』で財を成した近藤家は、日野町内で19カ所の鉄山を経営していました。「町史編さんだより」の7回目は、近藤家が経営した持ヶ滝山鉄山について紹介します。

☑ 鉄山名：持ヶ滝山たたら

☑ 所在地：日野郡日野町大字福長小字持ヶ滝

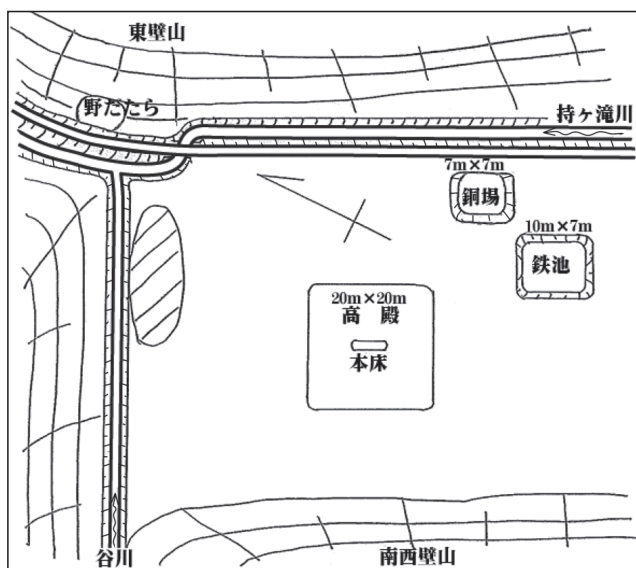
※日野町荒神原地内の日野川右岸を上って、持ヶ滝谷を700m進み、橋を渡った西側の林の中の平坦面

☑ 座標：北緯35度10分29.6471秒／東経133度19分57.2535秒

(インターネット、地理院地図でこの座標を入力すると場所が確認できます)

☑ 沿革：『伯耆志』の持滝山、『日野郡史』の持ヶ滝山と思われます。近藤家文書には、享和2(1802)年に畑・平作が経営し、文政5(1822)年～天保2(1831)年には備後屋喜兵衛(下備後屋)が経営した鉄山と思われます。

☑ 立地等：荒神原集落の南側より南東の谷へ入り、持ヶ滝川に架かる小さな橋を2つ渡り、20m進んだ西側に60m×40mの台地があり、それがたたら場です。中央に凹地があり、本床と思われ、本床から南東側に7m×10mの鉄池、東側が7m四方の銅場と思われます。南西には壁山があり、南は壁山からの斜面がゆるやかに下っており、西も壁山からのゆるやかな斜面が下り、その先には小さな谷川が流れ、北西側の谷川付近に製錬滓が多く見られます。壁山の下には炭窯が2つ見えますが、金屋子神社跡は不明です。また、鉄山墓は持ヶ滝川に架かる1つ目の橋の南、林道の東側を少し入ったところの笹藪の中に2基のほか、野面石の墓も見えますが、普段は笹藪に隠れて見えません。



<持ヶ滝山たたら付近には野だたらもあります。併せて紹介します。>

☑ 鉄山名：持ヶ滝山野だたら

☑ 所在地：日野郡日野町大字福長小字持ヶ滝 ※持ヶ滝山たたらを30m北に進んだ東側の台地上

☑ 座標：北緯35度10分30.647秒／東経133度19分57.9534秒

☑ 沿革：伝承なし

☑ 立地等：荒神原集落の南側より南東の谷に入り、持ヶ滝川に架かる小さな橋、2つ目の橋の10m手前の東側に6m×5mの台地上がたたら場です。東に壁山があり、西は林道への崖、北と南は壁山からの裾が下っています。西側の崖に製錬滓が少量見られます。

(藤原洋一＝歴史・民俗・文化小委員会委員)



▲持ヶ滝山野だたら

読んでみたらんかな～



『星野リゾートの事件簿』

- なぜ、お客様はもう一度来てくれたのか? -』

中沢康彦 著 / 日経トップリーダー 編



「星野リゾートは、長野県の軽井沢に本社を置く総合リゾート会社で、全国でリゾートホテルやブライダル事業などを展開しています。社長の星野佳路氏は、「リゾート再生請負人」として知られ、経営不振に陥ったリゾート施設や旅館を買収し、現場の社員の発想・モチベーションを引き出しながら、再生に取り組む手法で注目されています。

本書では、星野リゾートの中で、実際に起きた「事件」が紹介され、現場の社員が顧客に満足してもらうためにと試行錯誤し、問題解決に至る過程が描かれています。逆境に立たされた状況は誰しも少なからず辛いものだと思いますが、本書を通し、そのような状況を自らの成長につなげていく社員の皆さんの姿に元気をもらえるのではないかと思います。

また、顧客に満足してもらい会社を成長させるために、社員一人一人のことを大切にしようとする星野氏の姿勢に感銘を受ける方も多いのではないかと思います。働いている方、そうでない方も含め、いろいろな立場の方に読んでいただきたい一冊です」



この本を紹介してくれたのは…

健康福祉課（町福祉事務所）

すぎはら ようすけ
杉原 陽介

杉原さんからひと言：

「役場で働き始めて今年度で3年目になります。現在は、健康福祉課（町福祉事務所）で、主に障がい者福祉の仕事を担当しています。

障がいのある方が、日々の生活の中で望んでおられることや必要とされている支援の内容は個人差が大きく、小さな自治体である日野町では、必ずしも、それらに対して十分な社会資源が整っているとは言えない現状にあると感じています。

しかし、日野町では地元の障がい者施設を利用されている方と地域の皆さんとの日ごろの交流の機会が多く、「障がいのある・なしに関わらず共に助け合う」ということが当たり前のように浸透しています。これはほかの市町村と比べても誇れる部分ではないかと感じています。

これからも、そんな日野町の良いところを生かした「やさしいまちづくり」に取り組んでいけたらと思っています」

